



月の王子



ヒサハラユキオ

むかしむかし、ある国に王子様がいました。

王子様は、いつか自分が死んでしまうことが怖くて怖くて、毎日脅えて暮らしていました。そうしてある日、家来に死なない方法を探してくるよう命令しました。

さて、国の外れの小さな町に風変わりな科学者が住んでいました。

科学者は自分の発明した機械を使って、

死んだ猫を生き返らせたり、お天気の良い日に突然雨を降らせたり、

毎日不思議な実験を繰り返していました。

町の人には気味悪がって科学者の家には近付きませんでした。

王子様の家来はそれを聞いて、科学者を王子様の元に連れていくことにしました。

科学者を連れて家来が戻ってくると、王子様は科学者にどうしたら死なずに済むかたずねました。

科学者は体を機械に作り直してしまえばよいと答えました。

王子様は科学者に、自分の体を機械に作り直して欲しいと頼みました。

科学者は、それじゃあ作ってあげようねと言いました。

こうして、王子様は機械の体になりました。

これで死ぬことはありません。

けれど、もしも誰かが自分を壊してしまったらどうしようかと思い、再び科学者に相談しました。

それならば、誰も来ることができない場所に行って、ずっと一人でいればいいと科学者は答えました。

王子様は科学者に、誰も来ることができない場所に行く乗り物を作って欲しいと頼みました。

科学者は鉄でできた大きな丸い乗り物を作ると、その中に王子様を乗せました。

この乗り物を大きな大砲で空高く打ち上げてしまえば、誰も王子様の所に行くことはできません。

乗り物には機械の王子様を動かすための燃料もたくさん乗せました。

王子様が乗りこんで、出発の準備は万端です。

ところが、王子様はいつか燃料がなくなったらどうしようと心配になり、乗り物の中に科学者を呼びました。

科学者は、機械の電源を切ってしまうと燃料を使わなくなると言いました。

王子様は科学者に、機械の電源を切って欲しいと頼みました。

パチン。

科学者は乗り物から降りると、王子様の家来に大きな大砲で打ち上げるように命令しました。
乗り物が無事に打ち上がったのを見ると、科学者は自分の家に帰っていきました。

おやすみなさい、王子様。

今でも空を見上げると、王子様を乗せた丸い乗り物が見えることでしょう。